

# 国際火山学地球内部化学協会 2013年学術総会でのブース出展 (研究成果発表と立体地質模型によるアウトリーチ)

芝原暁彦<sup>1)</sup>・及川輝樹<sup>2)</sup>・西来邦章<sup>2)</sup>・古川竜太<sup>2)</sup>・石塚吉浩<sup>2)</sup>・山元孝広<sup>2)</sup>  
高田 亮<sup>2)</sup>・浦井 稔<sup>2)</sup>・斎藤元治<sup>2)</sup>・宮城磯治<sup>2)</sup>・岸本清行<sup>2)</sup>・川辺禎久<sup>2)</sup>  
下司信夫<sup>2)</sup>・風早康平<sup>2)</sup>・篠原宏志<sup>2)</sup>・宝田晋治<sup>2)</sup>

2013年7月20日～24日に、かごしま県民交流センターにて国際火山学地球内部化学協会2013年学術総会 (International Association of Volcanology and Chemistry of the Earth's Interior : IAVCEI) が開催されました (写真1)。本学術総会は、火山学に関係した学術成果についての検討と、国際的な火山研究の成果普及および情報の発信を目的として4年毎に開催されるもので、産総研も後援を行っています。地質調査総合センターからは主に地質情報研究部門の火山研究者らが中心となって多数の発表が行われたほか、地質調査総合センターのブースも出展されました (写真2)。このブースは、地質標本館および地質情報研究部門火山活動研究グループ、マグマ活動研究グループ、長期変動研究グループが中心となり企画・運営を行いました。

ブースでは目玉の一つとして、2013年5月10日に刊行された、200万分の1縮尺の地質編集図「日本の火山 (第3版)」を紹介するため、同地質図をアナグリフ化したものを赤青メガネで立体的に観察することができるコーナーを設置しました。更に産総研の火山研究の紹介のほか、これまで出版した17種の火山地質図の紹介や、「アジア太平洋大規模地震・火山噴火リスク対策 (Asia-Pacific Region Global Earthquake and Volcanic Eruption Risk Management: G-EVER)」の紹介なども行いました。また同ブースでは火山地質図の販売も行われ、会期中に相当数を売り上げました。一番多く販売された火山地質図は、阿蘇火山のもので、二番目が雲仙火山のものでした。九州開催であったためか、同地域の火山地質図に人気集中したようです。

もう一つの目玉となったのが、およそ50年ぶりに改訂される富士山の地質図のプロトタイプ版でした。これは1968年に発行された「富士火山地質図」(津屋弘達氏作成)の全面改訂に相当します。1998年以降15年間に亘る調査の結果、約900 km<sup>2</sup>に及ぶ富士山全域の精緻な地質情報が整備されました。この成果は新聞等にも取り上げられ



写真1 会場となったかごしま県民交流センター。

たので、ご存じの方も多いかと思います。会場ではこの新たな地質図を展示すると共に、これを立体化した精密模型も展示しました。この模型はCNCフライス盤の一種である3Dプロッタで造型された、297×297×29 (mm)の富士山地形模型の表面に、地質図を精密なプロジェクションマッピング技術によって光学投影したものです。模型の作製には国土地理院の基盤地図情報5 mメッシュデータを、また模型の素材としては樹脂の一種であるケミカルウッドを使用しました。模型への投影画像は、地質図以外にも、

1) 産総研 地質標本館  
2) 産総研 地質情報研究部門

キーワード：IAVCEI2013, 成果普及, 火山地質図, 桜島, 富士山

オルソ補正を行ったASTERによる衛星写真などを使用しました。富士山は2013年6月22日に世界文化遺産に登録されて間もないこともあり、海外の研究者からも注目を集めていました。また富士山の立体模型の隣には、今回の開催地のお膝元である桜島火山の地質立体模型（北海道地図（株）作製）も展示しました。この模型は、2013年に発行された桜島火山地質図（第2版）のデータを基に、カラー3Dプリンタで造型したものです。桜島周辺の陸上と海底の地形をシームレスに繋いだ模型ということもあり、

こちらも好評でした。富士火山地質図立体模型のカラー写真については、本誌口絵（p. 34～36）をご参照ください。

SHIBAHARA Akihiko, OIKAWA Teruki, NISHIKI Kuniaki, FURUKAWA Ryuta, ISHIZUKA Yoshihiro, YAMAMOTO Takahiro, TAKADA Akira, URAI Minoru, SAITO Genji, MIYAGI Isoji, KISHIMOTO Kiyoyuki, KAWANABE Yoshihisa, GESHI Nobuo, KAZAHAYA Kohei, SHINOHARA Hiroshi and TAKARADA Shinji (2014) Booth exhibition about research activities and 3D manufacturing in IAVCEI2013.

（受付：2013年9月30日）



写真2 展示ブースの様子。